

令和2年度事業報告書

社会福祉法人 埼玉医療福祉会

令和2年度 事業報告

令和2年度は前年度に引き続き、3つの経営課題である『収支バランス改善、人材確保等によるサービスの質向上、社会変化への対応』を実施し、加えて広域的な地域包括ケアシステム構築に向けて取り組み、利用者の増加がみられておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による基本的な感染予防策、三密の回避等の感染対策の徹底により、患者・利用者や医療・福祉施設にも様々な制限が生じ、運営面と財務面に大きな影響を受けました。

法人全体としては新型コロナウイルス感染対策としてゾーニングやスクリーニングを強化することで、一部病棟や福祉施設では従来での面会及び受け入れなどに制限が生じ、稼働に影響を受けました。

一方で、地域包括ケア病棟が在宅・施設にいる患者の病状悪化に対応し、地域包括ケアシステムの中心として、医療と介護の切れ目のないサービス提供に大きく貢献いたしました。また、訪問リハビリテーションを7月に開始し、医療・介護との連携の幅が広がり、より充実した在宅生活支援を実現できるようになりました。

これにより、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防と共に、地域包括ケアシステム構築の更なる推進を行った年といえます。そして、令和3年度以降も医療と福祉の理想郷を実現するため、引き続き地域包括ケアシステム構築に向け様々な人や施設と手を取り合いシステムの強化を行ってまいります。

また、新型コロナウイルス対応としては、引き続き慎重な運営を行い、地域の住民の皆様の医療と福祉を守るために、ワクチン接種にも積極的に協力してまいります。

結びに、埼玉医療福祉会は基本理念と基本方針、役割、そしてミッションである「Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS」を実践することにより、医療福祉サービスの質の向上を図り地域福祉の充実に貢献するとともに、高い公共性と倫理性をもって、安心した働きやすい職場づくりと適正かつ活力ある法人運営に努めてまいります。

1. 基本理念

『限りなき愛』

《ミッション》

Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS

2. 基本方針

- ① すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
- ② 安全で質の高い医療・福祉を実践します。
- ③ 地域の医療・保健・福祉機関との連携を密にします。
- ④ 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
- ⑤ 埼玉医科大学病院群との連携を密にし、第4病院としての使命・質の向上を図ります。

3. 役割

- ① 地域包括ケアシステムの中核的病院・福祉施設としての役割
- ② 埼玉医科大学病院群の第4病院としての役割
- ③ 福祉施設の関連病院としての役割
- ④ 行政の委託機関としての役割
- ⑤ 実習施設としての役割

法人部門

1. 運営実施状況について

① 顧客の視点

- ・新型コロナウイルスによる感染が拡大する中、埼玉医科大学グループ医療・福祉就職説明会ではオンラインを中心に実施し、また、他の就職イベントもオンラインにてPR動画を作成し参加した。
- ・多様化する福祉ニーズへの対応など、地域貢献の責務を果たすべく、自主的に連携・協働化の取り組みを進めるため、社会福祉法人間連携の推進について、検討を行った。

② 業務プロセスの視点

- ・AI、ロボット、IoT等の活用推進を実施し、業務用Wi-Fiの整備、タブレットを活用したオンライン面会や、遠隔診療、職場内オンライン会議の推進、ナーシングヴィラ本郷における睡眠センサー及びインカムのトライアル及び導入、ヘルステックベンチャーとのオンラインピッチ会の開催などを行い、業務効率化と同時にサービスの質向上に取り組んだ。
- ・令和2年度もケアワーカー、療育員を中心とした採用活動を実施した。

③ 財務の視点

- ・新型コロナウイルス支援金に関わる適切性の検証と情報を共有し、財源を確保した。
- ・令和3年4月看護要員配置基準と配置状況、必要人員数の策定、適正な人員配置及び人件費を精査し、経営判断の指標として活用した。
- ・介護職員処遇改善加算金の各事業所からの配分案を取りまとめ、遅滞なく行った一方、令和3年度処遇改善計画書及び新設の特定処遇改善計画書を策定し、4月に行政に提出する。

④ 学習と成長の視点

- ・介護職員の採用・定着・育成及び介護福祉士取得の促進を目的に介護福祉士養成実務者研修を開講し、25名が受験し、19名合格した。
- ・各種研修会のオンライン化を推進し、新型コロナウイルス感染拡大による制限がある中でもEラーニングや、オンライン等により研修が実施できるよう、研修体制を強化し、職員の学習と成長の機会を確保した。

丸木記念福祉メディカルセンター

1. 精神科部門

令和 2 年度は精神科に関わる個々のスタッフの努力により、精神科病棟、精神科療養病棟、合併症病棟のほとんどの病棟は 95%以上の高稼働を維持し、精神科作業療法の算定件数も増加することができた。新型コロナウイルス感染拡大に対しては、職員には頻回な体調チェックを徹底し、患者の入院前の抗原検査などを行い感染予防に努めた。地域連携業務として、一般住民や専門職向けに主催研修会や講師派遣を 5 回(うち認知症サポーター養成講座が 4 回)実施した。

次年度も精神科一同気を引き締めて地域の精神科医療の要としての使命を果たしていく。

2. 一般科部門

令和 2 年度も安心・安全で満足度の高い思いやりある医療の提供ができ、入退院の迅速化と病態の変化に応じて各病棟と適切な連携を行うことができた。埼玉医科大学グループの第 4 病院として、後方的な役割を担うと共に、在宅及び、関連施設等の急性増悪患者に対して早期対応を行うことで、地域包括ケア病棟などの稼働率が向上した。新型コロナウイルス感染症に対してゾーニング、個人防護具の着用、職員への頻回な体調チェック等、基本的対策の徹底に加えて、重点対応部署への人員応援、患者移動の迅速化及び、埼玉医科大学グループとの連携により早期の収束を迎えることができたが、一時、新規患者の受け入れに制限が出るなど、大きな影響が出た。タブレットを使用した遠隔診療や、オンライン面会の実施など、新型コロナウイルス感染拡大による制限がある中でも、ICT 機器を導入してサービスの質向上に取り組んだ。

3. 介護老人保健施設薫風園等

令和 2 年度も、薫風園施設としての役割を果たすべく、法人の基本理念・基本方針・役割・法人全体の事業計画を踏まえ、各種事業を展開した。

新型コロナウイルス感染症の拡大によりショートステイ、通所リハビリ、デイケアの一時中止や、入所におけるゾーニング等の感染防止策の影響を受け、ケアハウス、介護老人保健施設などでは利用者数が減少し、ケアハウスでは感染者が発生したが、人員等の体制を整え、個人防護具の着用、職員の体調管理等、徹底した対策を講じたことにより早期に感染収束を行うことができた。オンライン面会の実施のため、iPad 等の ICT 機器を導入し制限がある中でも面会を実施した。

介護老人保健施設等やケアハウスの稼働を持ち直すためにも、職員間でのアイデアの共有や広報活動の強化で利用者数の確保、さらには地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護・生活支援・介護予防等、当法人の特徴や強みを生かし、各種サービスの提供と質の向上に取り組む。

4. 暮らしワンストップ MORO HAPPINESS 館

暮らしワンストップ MORO HAPPINESS 館の開館から3周年を迎え、増加する在宅療養支援診療所への需要に対応するため、訪問診療医を4人体制に拡充した。また、在宅生活支援へのニーズに対応するため訪問リハビリテーションを開始し、地域のフレイル予防対策を目的に毛呂山町・越生町と協同してフレイル対策連絡会議の設置を行うなど、広域的地域包括ケアシステムの推進を進めている。また、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、ケーブルテレビ等を活用して在宅医療の普及啓発活動を継続すると共に、ICTを活用した来館者管理のため、サーマルセンサーや遠隔診療用 iPad を導入し、感染対策における業務負担の軽減を行った。

今後も、HAPPINESS 館と他施設や地域との連携を強化して課題に取り組み、広域的地域包括ケアシステムを早期実現するよう尽力する。

5. 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷

令和2年度も法人の理念である「限りなき愛」、そしてミッションである「Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS」に基づき、「ご利用者・ご家族・地域社会から信頼され、安心してご利用いただける施設」を目指し、職員一丸となって介護サービスの提供に努めた。

新型コロナウイルス感染症への対策として利用者の面会制限を行う中、家族へ利用者の状況及び写真の送付を行うほか、ICTを活用したオンライン面会の実施などを行った。ロボットやICTを活用した介護に取り組み、睡眠センサーやインカムを導入し、職員の夜勤負担軽減及び、利用者の事故防止策の強化を行った。引き続き施設の使命を果たせるよう感染対策や業務改善に取り組む。

6. 地域活動支援センターのぞみ

令和2年度は、第6期長期総合計画「飛翔」の3年目の年であり、「医療と福祉を融合した理想郷」実現に向けて業務を行ってきた。また、事業計画・基本方針を踏まえた当センターの役割を果たすべく尽力した。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令されたことにより一時閉所となるも、基本的な感染防止策を行いつつ、スタッフの資質向上に努め、障害福祉に関する情報発信や、他機関に対しての講演会の開催など普及啓発活動を行った。今後も地域の福祉施設としての役割を果たしていく。

7. 障害者自立支援施設やすらぎ・グループホームいこい

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大予防による感染防止策の徹底と共に、宿泊型自立支援と生活訓練、グループホーム事業の収支を安定させることを目標として事業に取り組み、宿泊型自立支援の稼働率が83.3%(前年度比+5.8%)に向上した。グループホームいこいも医療連携加算・基本報酬改定の算定により、利用者1人当たりの報酬を高めることができた。

引き続き、職員一丸となって各種加算の取得や職員のスキルアップによる業務の効率化、利用者獲得のための各施設との連携強化や広報活動に努める。

8. 毛呂山町老人福祉センター山根荘

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による休館等の影響により、利用者数が 2,859 名（前年度比: △16,254）、一日平均 22 名（前年度比: △63）と減少した。利用に際しては消毒、換気、カラオケの中止、利用時間の短縮化等の基本的な感染対策を徹底した上で、DVD の上映会の実施など、高齢者の生きがいづくり・交流の場の提供を行うと共に、感知式サーモグラフィや、飛沫防止対策用品を導入して館内環境の改善を行い、地域住民が健やかに暮らす一助になれるよう取り組んだ。

光の家療育センター

光の家は開設 54 年を迎え、入所利用者が年々高齢重度化していく中で、職員の看護・介護負担が増大している。それに加え少子高齢化の影響で職員の確保が困難な状況である。それに対応するため、この数年は職場環境改善、職員育成支援、オール埼玉医大で求人活動に尽力した。

その結果、職員負担の軽減やモチベーションアップにつながり、運営面では各リーダーと現状を共有し、入所者を積極的に受入れたことで年間の稼働率が 98%を上回り、稼働を維持することができた。

本年度は感染防止を最優先・最重要事項として取組み、短期入所事業の受入れ中止や、外来及び在宅支援事業の利用制限を設ける一方、窓越しでの面会実施やリモート面会を取り入れ、延べ400回のリモート面会の実施をすると共に、AI サーマルカメラの設置による入館管理の徹底、飛沫拡散防止等を行い、職員一同が団結して感染防止に努めた。また、業務の ICT 化を目的に施設内のWi-Fi 導入工事を実施し、インターネットの環境整備や、OA機器の導入を行った。

看護専門学校

令和 2 年度については、より優秀な学生確保のため、募集活動等を主要課題としたが、新型コロナウイルス感染症の影響により学生募集に関する活動が限定的な実施となった。令和 2 年 4 月から開始した「高等教育の修学支援新制度」については、対象学生に対して支援を実施した。

日常の学校教育については、学生一人ひとりの特性を尊重し学習の支援を行い、専門知識や技術習得を学ぶだけでなく、社会人としての教養と豊かな人間性、専門職業人としての倫理観の育成を目指し、学生支援を行う事などを教育の基本方針として実践した。

学生確保

- ・教職員・学生による学校訪問・母校訪問は中止し、近隣の実績校を中心に電話でアプローチした。
- 6、7 月に実施予定の学校説明会は中止したが、それ以外の学校説明会は、参加人数を制限し、感染対策を実施した上で年間 4 回開催した。
- ・令和 2 年 8 月、「高等教育修学支援新制度」の更新申請を行った。

入学試験実施状況

- ・看護学科:推薦入試・社会人選抜・一般入試Ⅰ期・Ⅱ期を実施。(志願者 160 名、受験者 150 名、合格者 95 名、入学者 76 名)

学生指導・国試指導

- ・一年次から計画的に国試受験対策を実施している。特に最終学年においては模擬試験の回数を増やし、その成績結果を個別指導強化に活用した。
- ・令和 3 年 2 月 14 日に第 110 回看護師国家試験が実施され、第一学科については新卒合格率が 91.0%、第二学科の新卒合格率は 93.3%を記録した。今後も学生指導に力を入れていく。

就職支援(新卒国試合格者)

- ・看護師国家試験合格者の進路は、第一学科、第二学科併せて 85 名、内 95.3%の学生が埼玉医科大学グループ内の関連病院に就職した。今後もグループ内の看護師安定供給に尽力する。